

<川越市>

## 自らの政治生命を支えた自公連立政権をも 「不手際」と放言する「川合善明市長の夜郎自大！」

令和 2 年第 4 回 川越市議会定例会 (6 月定例会)

6 月 10 日 一般質問

政治家というものは「個人」では立てない。選挙で勝つことから始まり、有権者と党派という共同体に支えられて、少なくとも職業としての政治家となることを許される。国政でも地方政治でも同じことだ。だが政治家のなかには、現在の自身の職責をまるで独力で担っていると思いがった人物もいる。

川越市長・川合善明氏は、まさにその典型のような政治家だろう。

本紙が追及してきた川合市長の思い上がりは枚挙にいとまがないが、先月 6 月川越市議会定例会での一般質問に答えた川合市長は、自らの政治生命を支えてきた自公連立政権を「不手際が目立つ」と、まるで政敵を批判するかの口振りで切り捨てた。言うまでもなく川合市長は自民・公明党に支持された政治家である。

連立与党の公明党は怒り心頭の様相だ。なぜか。

### 国民 1 人 10 万円の特別定額給付金は「公明党の功績」

既にメディアでも広く報じられたことだが、4 月 30 日に国会で成立した新型コロナウイルス対策の補正予算により実施された国民 1 名につき 10 万円を支給する特別定額給付金は、公明党・山口那津男代表が渋る安倍総理に強く進言したことで動いた。

当初安倍内閣が発表した「一世帯 30 万円給付（ただし所得制限による特定の世帯だけが対象）」は、与党内部からも異論と不満が噴出した。

一方で「30 万円案」は、財務省キャリアが仕組んだ倒閣工作だったとの噂もある。あまりに酷い政策を連打すれば安倍内閣が崩壊するだろうことを狙って「30 万円案」を官邸に吹き込んだというのだ。

いずれにしても、政権が一転して国民 1 人につき 10 万円の給付金に舵を切った理由は、連立与党の公明党が安倍総理に「迫った」からである。

現国政与党の問題は数々ある。ことに世は、まったく先の見えないコロナ禍の長期化にある。だからこそ「是は是、非は非」として、ひとつひとつの問題に誠実に取り組み、国民を救う具体策を実施することが政治家の任である。

**その意味でも公明党は、コロナ対策で多くの日本国民に光を当てた政治姿勢とその功績がある。**

## 国のコロナ対策を「不手際が目立つ」と放言の川合市長

### 与党内部からも「自分を棚上げして何様なんだ！」と怒りの声

政権与党を厳しく追及する本紙でさえ、認めるべき与党の功績があれば賛同する。しかし、川合善明市長はあろうことか自分自身が自公連立政権の一員であり、なおかつ川越市政においては不断の支援を受けている自民党・公明党の顔に泥を塗る議会答弁を行ったのだ。ここで 6 月 10 日の市議会（令和 2 年第 4 回）定例会での **小林薫市議** と **川合善明市長** の、やりとりを抜粋で紹介しよう。

#### 小林薫議員

平成 21 年に市長が当選され、3 期目、約 11 年 4 カ月経過したわけですが、市長にお尋ねします。

市長は、初当選された時と今日、初心に変わりはないのか。

初心は、もうすっかり忘れてしまったと言うのか。それとも初心に変わりはなく市政運営に取り組んできているのか。お尋ねします。

2 点目に、現在の国のあり方、自公連立政権・安倍内閣の運営…幅広くなりますので、今回のコロナウイルス対応について市長は、現在の政権のコロナウイルス対応は、どのようにお考えか。いい対応をしていると思っているのか。

あるいは、まずいと思っているのか。お尋ねをします。

## 川合善明市長

1点目。初心に変わりはないかどうかという点でございますが、変わりはないつもりでございます。

2点目。政府のコロナウイルス対応が、どうか。という点でございますが、国民の目、あるいは行政の方から、地方行政の方からの目をもって見ておりました。感想と言いますか意見としては、不手際が目立つなど、そういうような点がございます。

例えば、感染症の予防体制の医療体制等につきましても、もう少し早く色々な対応準備ができたのではないだろうかとか、そういうようなことも感じております。

この川合市長の答弁に公明党は怒り心頭だというのである。議会事情に詳しい人物によれば「川合は自分を棚上げて何様なんだということですよ」という。それも無理はないだろう。国のコロナ対策にモノが言えるほどの市政としての対策を、川合市長が実行できているとは到底言えないからだ。本紙既報の通り川越市での特別定額給付金は、坂戸市・鶴ヶ島市の同事業遂行に比してあまりに遅かった。

[http://www.gyouseinews.com/p2\\_1\\_kawagoeshi/2020061701.pdf](http://www.gyouseinews.com/p2_1_kawagoeshi/2020061701.pdf)

しかも、**2億1,637万円**という市税を民間企業に丸投げしておきながら僅か**800万円**の業者委託料で給付作業を終えた他市よりも、川合市政のコロナ対策は遅滞したのだ。川越市の世帯数と職員数でいえば、基本的な業務負担は他市に比して軽いはずで、そのうえで血税からなる巨額の給付金事業委託料を投じながら、市民の怒りを噴出させるほどの遅滞であった事実は、川合市政がいかに怠惰であるのかを雄弁に物語っている。

そうした川合市長の口から「**不手際が目立つ**」などと、よくぞ言える。

コロナウイルス危機が国際的に深刻化する最中に、**公費で出席した宴会でコンパニオンと手をつないでカラオケに興じる「市長」**など、もしかすると世界中のすべての自治体行政のなかで川合善明氏ただ一人だけではないだろうか？

国連でアンケート調査でもして頂きたいものだ。

## 川合市長へ告げる…

コロナ対策と同じく遅すぎる政権 **「チェンジ」** も迅速に！

さて、小林薫市議の「**初当選から初心に変わりがないか**」との最初の質問には「**変わりがない**」旨を述べた川合市長だったが、それを受けて小林薫市議は、こう返して結んだ。

## 小林 薫 議員

最初に市長は、初心に変わりはないのかということに対しまして、変わりはない。と述べております。

それを聞いて私は、今日、この議場で登壇した価値があったと思います。市長から初心に変わりはないという、そういう答弁を頂きました。

市長は当選して直ぐに**多選**を批判した。舟橋市政 4 期 16 年を批判し、「**チェンジ**」というのを台言葉に市長は当選されました。自らが 3 期 12 年をもって、市長の職は辞すると述べた。それが市長の初心であります。

従って、市長が初心に変わりはないということは、市長は今季限りの辞任、退任を公表されたものだと、私は受け止めました。

市長は初心を忘れていないという事ですので、市長は本日ここでもって 3 期 12 年で退任するという事を、私は確認させて頂きました。



さすが落語家議員というべきか、見事なオチで議会を傍聴した本紙記者の報告に思わず膝を打った。ここまで言われて、川合氏が浅ましくも次期市長選に欲をかくのであれば最早、川合善明に政治家を託す有権者も政党もいなくなるだろう。